



コウノトリ繁殖支援プロジェクト@2020 神栖

かみす

ニュースレター No.4

2020年9月16日



コウノトリ定着の『鍵』をにぎる採餌環境条件を調べる 協働調査を始めました！

コウノトリ達が、利根川下流の神栖市矢田部地区に次々と集まってきたことによって始まった当プロジェクトですが、**なぜコウノトリ達はこの地域を選んだのでしょうか？**

その大きな理由は、「水田や河川に餌となる生き物が豊かだから」と推測されています。年間を通じて水のある、神栖ならではの「掘り下げ水田」が広がり、利根川では国交省が湿地整備の自然再生事業を次々と進めています。こうした**水田と河川が生態系ネットワークとして機能していることが、神栖にコウノトリを呼び寄せた**と考えられます。



では本当に、餌動物は関東の他地域に比べて多いのか？プロジェクトと関係のある研究者や機関、地元団体に声を掛け、**東邦大・長谷川教授をリーダーに、国立研究開発法人土木研究所、茨城県生物多样性センター、波崎愛鳥会、日本生態系協会**でチームが生まれ、まずは**コウノトリがよく見られる水田2地区で、餌動物調査を開始**しました。6月と8月に実施された現地調査では、6種ものカエル類を始め、利根川と用水路のつながりを示す魚類も多数確認されました。今後、テーマに応じた調査を予定し、コウノトリが完全に定着している豊岡等と比較して、生息地づくりの中に活かしていく予定です。

調査地と調査風景



確認された餌動物



カワアナゴ

トウキョウダルマガエル

ニホンアカガエル

捕獲された大量の魚類

神栖のコウノトリ
何を食べているかな？
(左から、ウシガエル、ドジョウ、アメリカザリガニ)

※写真：波崎愛鳥会
(平井喜彦氏)



利根川河川敷の自然再生事業により保全整備された湿地 コウノトリたちを支える大切な生息環境となっています

コウノトリが神栖を選んだのは、利根川河川敷に採餌や休息地として良好で安全な干潟状の湿地が存在することも、大きな理由のひとつです。これは、**国交省利根川下流河川事務所が自然再生事業の一環として整備創出してきた水域で、この場所が堤内地側の水田と一体となって、効果的に利用されています。**今後の各種河川事業の中では、コウノトリの定着を意図した取組みの推進が期待されます。



巣塔設置場所の水田地帯に隣接して広がる利根川河川敷の自然再生事業により整備された湿地

(写真：利根川下流河川事務所提供)

- (左中ほどの水域) コウノトリが採餌やねぐら・休息の場として頻繁に利用している古くからの湿地
- (手前の四角い水域) 2019年度に掘削整備された川際の新しい湿地



整備から時間が経過している自然再生湿地は、コウノトリやサギ類など水鳥たちの生息適地となっています。

- 採餌に適した水深のある自然再生湿地 (写真左：7月19日撮影)
- 水位が下がり干潟状になった自然再生湿地 (写真右：8月20日撮影)

※写真：波崎愛鳥会 (阿部正行氏)

★コウノトリ観察に神栖へおいでの際は、地元住民・農家の方々のご迷惑にならないよう、また、コウノトリたちに近づきすぎないように、ご注意くださいようお願い致します。

【協働推進団体】波崎愛鳥会・日本野鳥の会茨城県・(公財)山階鳥類研究所・(公財)日本生態系協会
【お問合せ】(公財)日本生態系協会(担当：大見) ☎048-649-3860/Email: kounotori@ecosys.or.jp